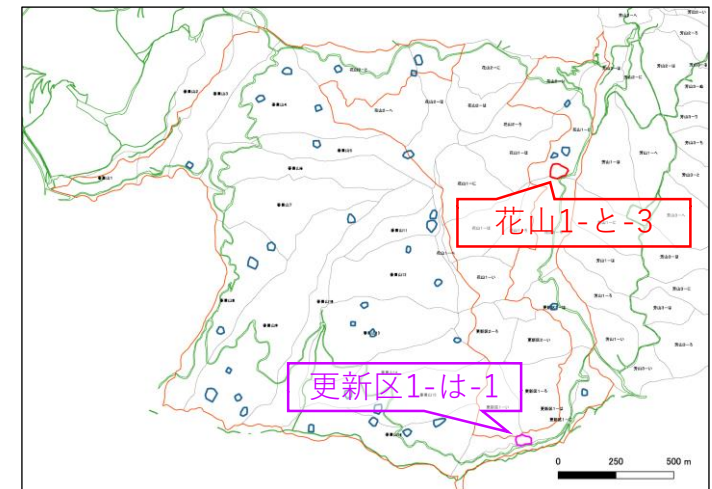


- 「花山1-と-3」設置 (R3.8)
 - 総延長約236 m、面積約3,420 m²
 - 従来型より耐久性の高い仕様
 - ・支柱強度の向上 (従来3倍の強度)
 - ・支柱間隔の短縮 (3 m→1.5 m)
 - ・支え支柱の追加
 - ・スカート幅の拡充 (30 cm→1 m)
- 「更新区1-は-1」実施設計
 - 令和4年度設置予定
 - 総延長約203 m、面積約2,364 m²を想定
 - 「花山1-と-3」と同一の仕様を採用
- 植生保護柵の維持と管理
 - 「春日山16-2」の撤去 (複数回の倒壊)
 - 保護柵維持の支障となる枯損木の撤去 (植生保護柵6箇所8本)
 - 定期巡視・保守作業の実施 (2箇所支柱破損)
- 今後の取組
 - 植生保護柵の維持・管理の継続
 - 新規保護柵の設置による保全面積の拡大



「花山1-と-3」植生保護柵
(設置済)



植生保護柵の位置

●36箇所 (H25～H28設置) 植生保護柵における調査 (5年間) の完了

➤ 毎木調査 (樹高2m以上)

- ・ 胸高直径5 cm未満の成木の加入による柵内成木の増加

単位面積あたりの本数と胸高断面積合計
 2,212本/ha⇒2,253本/ha 前回比102%
 50.2 m²/ha⇒50.5 m²/ha 前回比101%

➤ 植生・林床植生調査 (樹高2m未満)

- ・ 柵内出現種数の増加
(36箇所の平均約21種→49種 前回比233%)

・ 奈良県RDB種の出現
 (例) ウドカズラ (シカの影響による衰退が懸念)
 フモトシケンダ (県内自生地が少ない) 等

➤ 後継樹生育状況調査 (主要構成種で当年～3年生程度の実生)

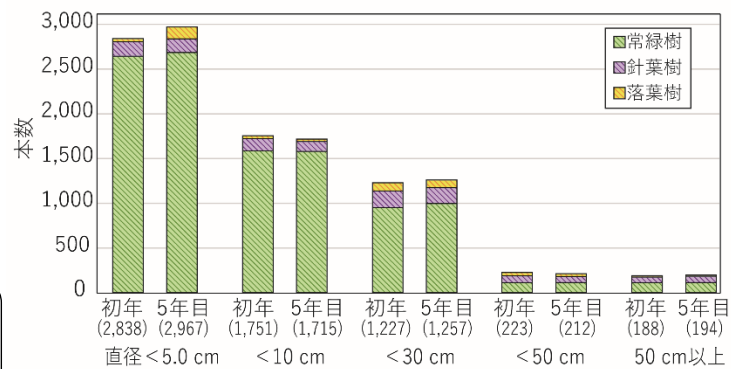
- ・ 追跡中の後継樹実生約59.4%が生存 (498本中296本)

- ・ 年間約4.3 cmの樹高の生長

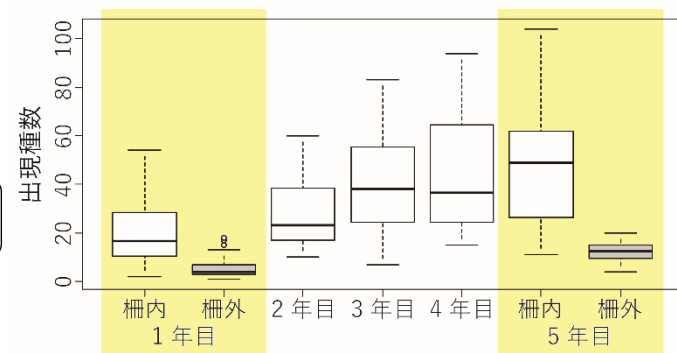
1年あたりの樹高の生長量
 常緑樹 平均 3.2 cm/年 Max : 64.0 cm/年
 針葉樹 平均 3.3 cm/年 Max : 16.8 cm/年
 落葉樹 平均16.0 cm/年 Max : 54.6 cm/年

●今後の取組

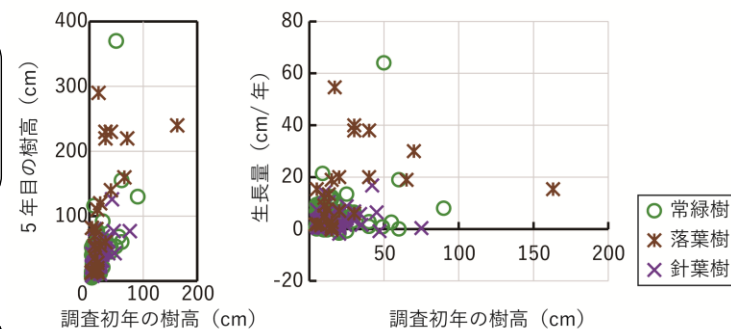
- 新スケジュール・項目によるモニタリング調査の継続実施



胸高直径別の本数 (柵内成木)



出現種数の推移 (林床植生)



追跡中の後継樹の樹高と生長量

報告 (3) 後継樹の育成と修復植栽

●後継樹育成状況

- R3種子の播種
⇒4種1,457個の種子を播種
- 苗木の育成 (R1・R2播種)
⇒現在6種 (シイ・カシ類) 317本

●過年度修復植栽の生育状況

- 3地点、計39本をR1・R2に植栽
⇒現在36本が生育中
(各地点1本、計3本が枯死)
- ⇒苗高の生長、植栽箇所への定着

●令和3年度修復植栽の実施

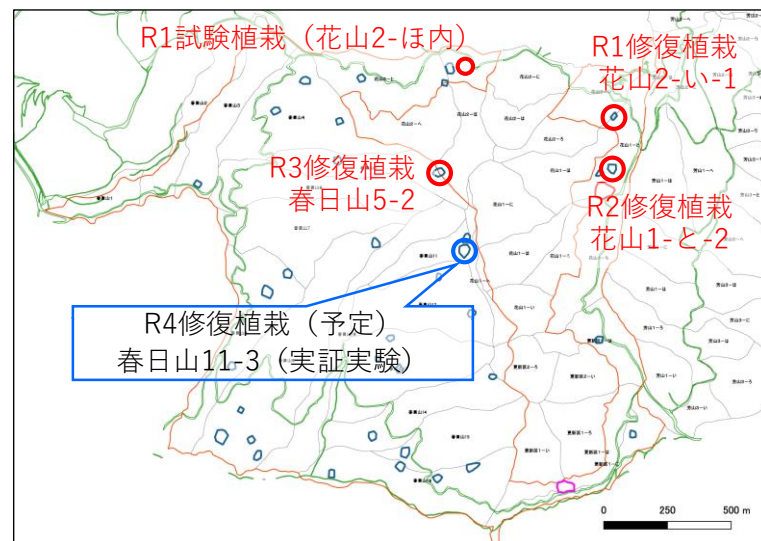
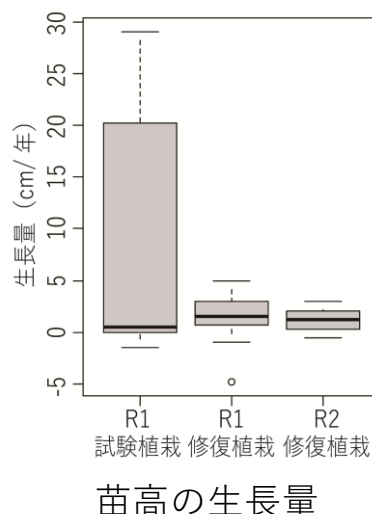
- R1播種の後継樹苗木を使用
- 3種15本、5組の巣植え
(アカガシ、アラカシ、ウラジロガシ)



作業の様子と植栽した後継樹実生

年度 実施箇所	植栽樹種 (本数)
R1試験植栽 (花山2-ほ)	【4年生苗木】 アラカシ (2→1) ウラジロガシ (3) コジイ (1) ツクバネガシ (3)
R1修復植栽 (花山2-い-1)	【2年生苗木】 アカガシ (7) ウラジロガシ (10) ツクバネガシ (4→3)
R2修復植栽 (花山1-と-2)	【当年生苗木】 アカガシ (3) アラカシ (3→2) ウラジロガシ (3)

下線…枯死した樹種



修復植栽実施箇所

報告 (4) 外来種ナンキンハゼの駆除

●生育状況調査 (R2・R3)

- 成木 (樹高2 m以上) (○)
 - 保護柵内 (2箇所) : 11本
 - R2調査 (12.5 ha) : 24本
 - R3調査 (15.0 ha) : 24本
- 低木群 (直径5 cm未満、樹高1.5 ~ 2 m程度) 点を3箇所で観察 (▲)

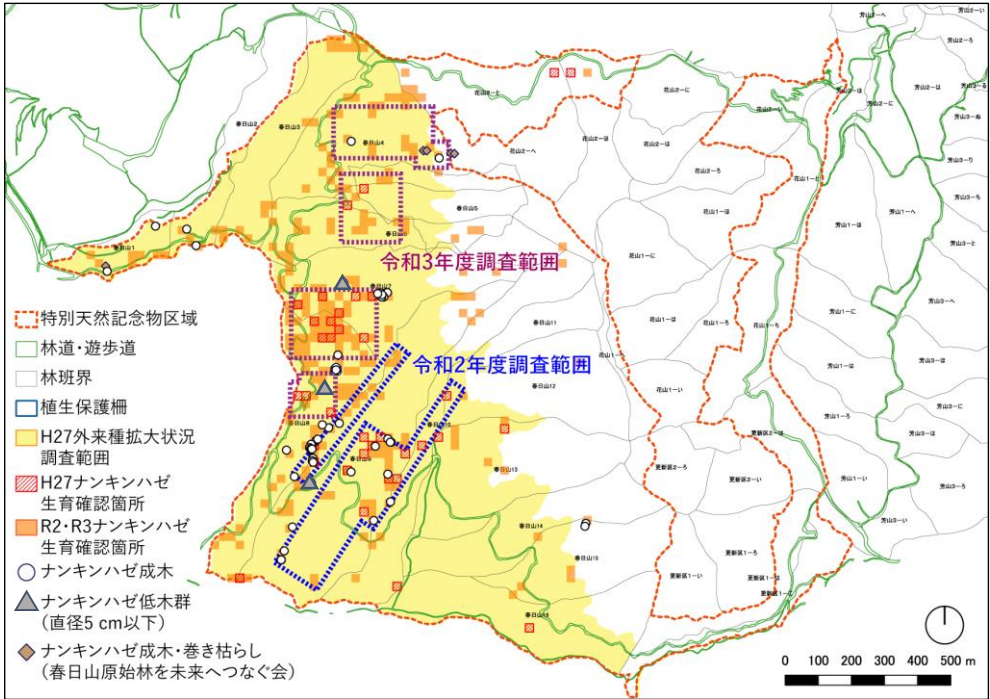
合計
59本

●駆除作業の実施状況

- 令和2年度駆除個体 (25本)
 - 経過観察 : 14本で萌芽を確認 (確認後萌芽は除去)
- 令和3年度伐採 : 11本 (成木10本 + 近傍の枯死立木1本)

●今後の取組

- 駆除後のモニタリング調査の実施 (伐採済36本)
- 調査で把握されたナンキンハゼ (成木残り24本) 順次伐採
- ナンキンハゼ実生の駆除の継続



原始林内におけるナンキンハゼの記録地点



伐採作業 (R3)



伐採後の萌芽の発生

報告 (5) ナラ枯れ被害状況調査

<資料1>
参考資料5参照

●大径木追跡調査 (胸高直径80cm以上 ブナ科(シイ・カシ類) 361本)

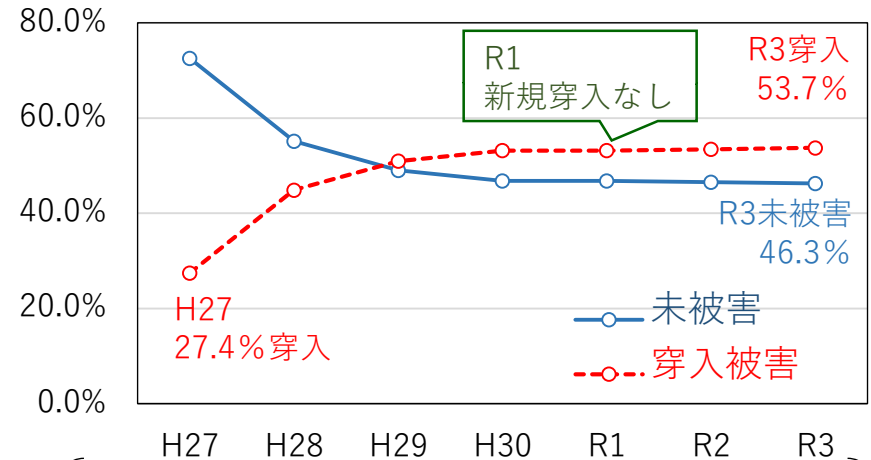
- 新規穿入被害1本(アカガシ)発生
- 全体の46.3%が未被害木
…被害は収束傾向

●大径木への薬剤樹幹注入

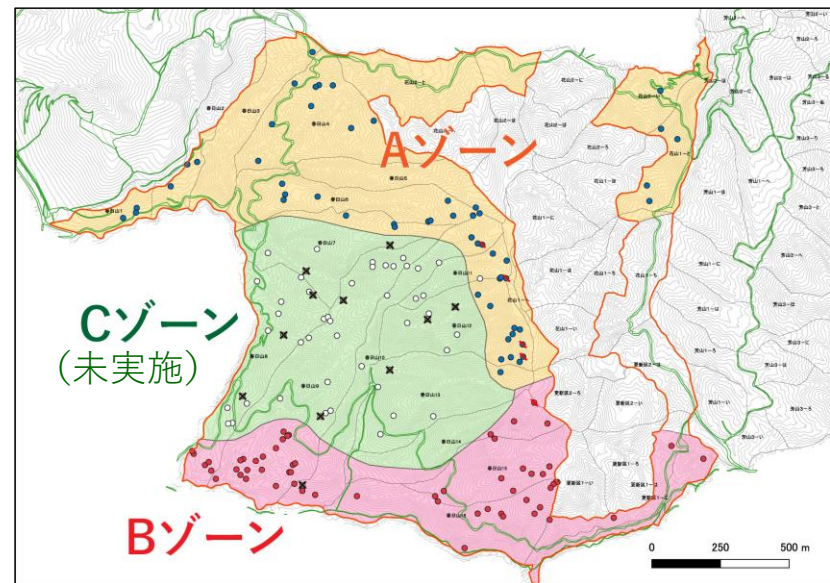
- ブナ科(シイ・カシ類)の未被害の健全木160本に注入(予定)
- 現在までに116本で1回目の薬剤樹幹注入を実施
- 実施後、5本(4.3%)で穿入被害
(1本は枯死、4本は現在も生存)

●今後の取組

- 未実施の健全木への1回目薬剤樹幹注入の実施(44本)、2回目の薬剤樹幹注入の実施(R3時点健全木155本)
- 大径木追跡調査の終了*
- 薬剤樹幹注入後の経過観察の継続



R3時点の状況
未被害の健全木：155本
未被害の枯死木：12本(幹折れ等、穿入被害なし)
穿入被害：194本(内、58本は穿入確認後に枯死)



薬剤樹幹注入の地区区分
(Aゾーン：H30、Bゾーン：R1～R3実施済)

* 植生保護柵モニタリング等、別途調査による観察は継続